

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	自己評価番号	できている点	出来ていない点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13,14	ご利用者が認知症を抱えながらも、自分らしさを失わず、穏やかさの中にも生き生きと生活するという目標に向かって、各職員がそれぞれに熱心に工夫しながらケアと支援に取り組んでいる。	現在提供している支援、ケアの質が、グループホームケア、また認知症ケアの一般的な(または最新の到達)水準から見てどのように位置づけられるのか、独りよがりにならないよう省みながら、更に質の高いサービスを目指すような視点を持ち続けたい。	いろいろな外部の研修に参加して、その結果を職員間で共有する。各職員が自己研鑽しながら、それを事業所内での研修で共有し、議論できるような機会を持つ。	1. 新型コロナの影響で多くの研修が中止になっているが、可能な限り外部の研修に参加し、それを職員会等で共有、議論する。例えば、認知症介護基礎研修、認知症ケア学会主催研修、グループホーム協会主催研修など。	6ヶ月
					2. 事業所内で隔月くらいの頻度で職員が輪番の担当でテーマを決めて研修を行う。	6ヶ月
2	6,7,8	ケアと支援の基本理念としての権利擁護の基本についてはできていると思われる。	権利擁護、基本的人権の理解を日頃の認知症ケアの中で実践するには、迷ったり、苦慮したりする場面もある。	権利擁護、基本的人権の尊重の観点から常に日頃のケアを見直すことができる。	権利擁護、虐待防止、身体拘束などについての研修を受けたり、文献を読むなどしながら、個々のケースについて職員間で検討してゆく	6ヶ月
3	35	開設して1～2年の事業所として、火災、水害など災害時の対応方法についての計画策定、訓練実施に取り組んでいる。	計画、訓練、備蓄等において最低限度のことはできていると思われるが、更に周的な準備に努める余地がある。	火災、自然災害への対応が十分にできるよう、より実践的な計画、訓練、備蓄等に努める。	1. 災害時避難用大型の運転を多くの職員ができるようにする。	6ヶ月
					2. 災害時避難時に必要な備蓄品の選定と購入、保管を行う。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。